

第 92 回天皇杯・第 83 回皇后杯全日本総合選手権大会（オールジャパン 2017）T0 参加報告

平成 29 年 1 月 2 日（月）大会初日・3 日（火）大会 2 日目の 2 日間にわたり、オールジャパンの T0 スタッフとして、大尾浩二（東予ミニ連）、関口美香（中体連）、丸井麻紀子（中予ミニ連）、今城千恵（東予ミニ連）の 4 名が参加しました。（2017 年愛顔つなぐえひめ国体に向けて・・・愛媛国体 T0 主任の研修として愛媛県協会からの研修派遣として大会に参加させていただきました。）

簡単ではありますが、報告させていただきます。

◇担当ゲーム◇

○ 1 月 2 日（月）大会初日 女子 1 回戦 北陸大学 VS 松蔭大学

A スコアラー：大尾浩二 スコアラー：今城千恵 タイマー：丸井麻紀子 ショットクロックオペレーター：関口美香
担当 T0 主任：笠島氏（東京都）

得点差がつき、オフェンス側のリバウンドが多く、ファールや交替が多いゲームであった。

担当主任の笠島氏より

- ・ショットクロックの巻き戻しが早い。
- ・タイムアウト、交替のブザーは、パイオレーションの笛、ファールレポートの後、一呼吸おいて鳴らす。早く鳴らさない。
- ・ブザーの担当者において、時限に関係するものは、タイマーが担う。
- ・スコアラーと A スコアラーは協力して、出場しているプレイヤーを常に確認する。

○ 1 月 3 日（火）大会 2 日目 女子 2 回戦 滋賀銀行 VS 山形銀行

A スコアラー：大尾浩二 スコアラー：今城千恵 タイマー：丸井麻紀子 ショットクロックオペレーター：関口美香
担当 T0 主任：吉田氏（岩手県）

チーム力に差がなく（ブザービートでオーバータイムとなる）とてもタイトなゲームであった。

担当主任の吉田氏より

- ・タイトなゲームにおける協力方法。
タイマーとショットクロックが連動されていない時、役割をずらし合う事も考えておく。
（タイマーを集中させるためラストブザーをスコアラーが担う）
ベンチの動きなど、事前連絡により情報を共有するために声の掛け合いが必要。
審判との協力・確認が大切だが、最終判断は審判であり、要請があった時のみ対処する。
- ・スコア記入ミスを防ぐためのスコアラーと A スコアラーのコミュニケーション。
コンスタントにテンポよく。
どちらが見ていくか、決めておく。（シューターやファールプレイヤー）
ピリオド開始時、タイムアウト明けのメンバー確認の声掛けが重要。
オーバータイム時のスコア記入の再確認（4 P の続きで記載）。
- ・ショットクロックのカウントダウンの声の必要性（全員で耳にしておく）。
- ・全てが上手くいくように、T0 チームとしてゲーム前のミーティングが必要。

◇感想◇

大変貴重な役割を与えていただき、ありがとうございました。

2日間を通して感じたことは、大きな大会での経験、特に緊張感とプレッシャーを感じながらミスすることなく任務を終えることの難しさを痛感しました。

愛媛国体においては、実際にT0に携わるのは高校生の補助役員であるため、どのようなハプニングが起ころうとも、T0主任(競技役員)の私たちが冷静に状況を判断し落ち着いて対応しサポートできるかが大きな役割となります。一戦一戦がナイスゲームで終わることができるためにも、今回の経験で得たことをしっかりと伝えていかなければならないと考えています。

